こどもの事故の防ぎ方



こどもの命を守るのは大人の責任です。
事故防止には、最大限の注意を払い、
命に関わるような事故は絶対に防がなければなりません。
こどもの目線で見回して、危険なものがないか常に確認しましょう。
こどもからできるだけ目を離さないようにすることが大切です。

月齢・年齢	起きやすい事故	予防のポイント
新生児～6か月	窒息（ちっそく）事故 転落事故	● 敷布団はかためのものを選びましょう。 ● タオルや掛け布団で赤ちゃんの顔を覆わないように気をつけましょう。 ● 添い寝をしながら授乳をしないようにしましょう。 ● うつぶせに寝かせないようにしましょう。 ● ベッドの柵は必ず上げておきましょう。
7か月～11か月	転落・転倒 （玄関・ベビーカー・階段からの転落など） やけど・誤飲・中毒	● ハイハイやつかまり立ち、つたい歩きなどができるようになると、いろいろな事故が起こりやすくなります。こどもから目を離さないように気を付けましょう。 ● こどもの身の回りや手の届くところに誤飲ややけどにつながるようなものは置かないようにしましょう。
1歳～6歳	溺水（溺れる） 転落事故 誤飲・中毒・交通事故	● 浅い水でもおぼれることがあるので、浴槽の水をすべて抜いておきましょう。 ● お風呂のふたの上で遊んだりするので、お風呂場の扉には鍵をかけましょう。 ● ベランダに踏み台になるような物を置かないようにしましょう。 ● 危ないことをしたら、きちんと叱り、規則とマナーを教えましょう。 ● 外出時、危険な場所は手をつなぐなど、こどもから目を離さないようにしましょう。